
勘違い電話

めみょうすずはく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勘違い電話

【Nコード】

N8450U

【作者名】

めみよつすずはく

【あらすじ】

勘違いとは、誰にでも起こりうることである。

ある日、かかってきた一通の電話。

かけた相手は、どうやら勘違いをしているようだ………？

台詞と少々の息抜き短編。

(前書き)

説明などは一切ありません。

あるのは台詞と音だけ。

それでもよろしいのなら、どうぞ。

prrrr... prrrガチャ

「はい、もしもし」

「あ、たくみん？ 俺だよ俺」

「え？ どなたですか？」

「だー、かー、らー、俺だつて」

「いや、どなたですか？ あと、たくみんって誰ですか？」

「俺だつていつてんじやん。あとたくみんはたくみんだろ？」

「え、いや」

「たくみん、北表デパートの前集合つて言ったじゃん。なんでまだ来ないんだよ」

「だからお前誰だよ！」

「おい、たくみん。いい加減にしないと俺怒るぞ」

「俺はたくみんじゃねえ！」

「はあ？何を言つて.....」。

.....

誰だお前！？ だ、騙したな！？

「訳分かんねーよ！ 騙してなんかねーよ！ お前が勝手に勘違い

しただけじゃねーか！」

「くそつ、なんて野郎だ！」

「こつちの台詞だ！」

「プツツ。ツー、ツー。」

「なんだよあの電話の野郎。意味分かんねえ。」

prrrrr...

「あ？ また電話か？」

ガチャ

「なあ聞いてくれよたくみん、さっきさ、たくみんに電話した時さあ、変な男がでやがってさあ。訳分かんねーのよ。」

なんだよあの野郎。俺を騙したりしてきたんだぜ？」

「騙してねーよ！」

「おおっ！？ どうしたんだたくみん。いきなり大声出して」

「だから俺はたくみんじゃねえつつつてんだろうがっ！」

「たくみん。怒ると寿命縮まるよ？」

「てめえが言うなや！ だいたい俺はたくみんじゃねえつてさつきから言っつてんだろうが！」

「そ、その声、たくみんじゃないな！？」

「はじめっから気付けや！」

「まさかさつきの奴か！？ 二度も俺を騙すなんて……なんて悪い奴なんだ！」

「誰もてめえなんざ騙してねーよ！」

「バーカ！ バーカ！ 鍋食べて口の中火傷しろ！」

「今は夏だっ！」

プツ。ツー、ツー。

「なんなの？ 本気でアイツなんなの？ 俺に嫌がらせしたいのか？」

p r r r r r r

「うわあ、とりたくねえ。しかもテレビ電話だし」

……ガチャ。

「やあたくみん！ 聞いてくれよ！ モグモグ。さつきさあ、モグ

モグ。俺がさあ、モグモグ。」

「焼きそば食いながら喋んなや！」

「駄目だよたくみん。モグモグ。今はもう12時、モグモグ。つまり昼ご飯の時間だよ？ モグモグ。1日四食しつかりたべなきゃ」

「一食多いわ！ あと俺はたくみんじゃねえ！」

「またまた。たくみん、さつき二回も変な男に、俺は騙されたんだよ？ 学習ぐらいするさ。だからほら、テレビ電話」

「騙してねえ！ お前がアホすぎるだけだろ！」

「あれ？ たくみん目の位置が変わったね。髪型もかえたの？ 肌

も白くなったねえ」

「そこまで気付いていて何故分らない！」

「あ、そうそう。早く北表デパートに来てね。待ってたんだから」

「誰が行くか！」

「でも本当にたくみん変わったね」

「急に話題変えんな！」

「1カ月前はもつと痩せてて、もう少し顔が小さくて髪の毛も茶色じゃなくて黒だったよね。

なにをしたの？ 整形？」

「そんなの短時間であきらかに変わりすぎだろ！」

「あれ？ よくみたらたくみに似てない……

お前、誰だ！？」

「俺だつてその質問をお前にしたいわ！」

「はやく答える！ ボコボコにするぞ！」

「あア？ やんのか？」

「す、すみません！ じゃなくて、この声はまさかさっきの電話の奴か！ よくも三回も騙したな！」

「騙そうとしてないし、友人と他人との見分けもつかねーのか！」

「くそう、せつかくたくみんと北表デパートで待ち合わせしてたのに。」

たくみんは来ないわ、訳の分からん奴に電話はかかるわ」

「失礼な！ だいたいてめえのいる場所北表じゃなくて南表だろうがっ！」

「何を言っているんだ詐欺師のくせに。だいたいここが南表な訳……

あっ」

プツッ。ツー、ツー。

「……遅いなあ」

「あ、たくみん、待った？」

「いや、待った？ じゃないよ。今2時だよ？ 待ち合わせの時間
10時だったんだよ？ なんで4時間も遅れてるの？」

「アツハツハ。ごめんごめん」

「ごめんじゃないよ……。」

まあいいや。お腹すいたからお昼ご飯食べに行くっ

「え？ 俺もう食べたよ？」

「……えっ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8450u/>

勘違い電話

2011年10月7日13時00分発行